

令和7年度 府中市立府中第六中学校学校経営報告書

府中市立府中第六中学校
校長 佐藤 光宏

1. 今年度の取組目標

(1) 教育活動の目標と評価

1) 学習指導について

- ① 授業規律を大切にし、日々の1単位時間（50分間）の授業の充実に努める。
- ② 教師は教材開発や指導方法の工夫に努め、生徒の学ぶ喜びと教師の教える楽しさに溢れた「分かる授業」「楽しい授業」を実践する。生徒の授業アンケート「授業はわかりやすいように工夫されているか」の肯定的な回答90%以上を目標とする。
- ③ 生徒に学ぶ見通しを持たせるために、「学習指導と評価について」を配布し評価規準・や評価方法を明確にし、学習に対する意欲を喚起する。
- ④ 基礎学力の定着を目指し、反復学習や横断的学習、活動等を重視した授業を推進する。
- ⑤ 本校が初任校となる教員の割合が約45%と増加している。府中市教育委員会研究推進校の取組を活用し、校内研修、ミニ研修のとして年間20回程度の研修を計画し、実践を図ることで教員の授業力向上を図る。
- ⑥ GIGAスクール構想による、一人一台タブレットの活用を引き続き推進するとともに、目的や課題に応じて機器を効果的に活用し、情報を主体的に収集・判断・表現・処理するとともに、発信、伝達する力を身に付けさせる。また、ICT委員会を中心として、ICT機器等の先進的で有効な活用法を取り入れ個別最適な学びを推進する授業改善に努める。生徒アンケート「授業においてICT機器が活用されていますか」の肯定的な回答80%以上を目標とする。
- ⑦ ユニバーサルデザインの視点を重視し、授業内容や教室環境、人間関係づくりに配慮した授業改善に取り組む。
- ⑧ 家庭との連携強化を通して学習習慣の定着を図り、基礎学力の定着向上を目指す。また、小中連携を通じた家庭学習の習慣化の取り組みも推進する。生徒アンケート「宿題や家庭学習の習慣が身に付いているか」の肯定的な回答75%以上を目標とする。
- ⑨ 保健体育の授業改善と体育行事、部活動の活性化を図り、生徒の体力向上を推進する。全国体力・運動能力調査において全種目で東京都平均を上回り、全国平均を目標とする。
- ⑩ 理科、社会科、技術家庭科、保健体育科、総合的な学習の時間を中心として教科横断的に持続可能な開発のための教育（ESD）を実践する。
- ⑪ TGG体験活動や「世界とつながる英語 Enjoy Week」の取組を通して、生きた英語を用いたコミュニケーションの能力の充実に努める。

●チャイムと同時に始まる「わかる授業」「楽しい授業」を目指し、指導内容の工夫およびICTを効果的に活用した授業研修に継続して取り組んだ。また、指導と評価の一体化を目指して教科を越えた意見交換研修も実施し授業改善につなげた。生徒授業評価アンケート「授業はわかりやすいように工夫されているか」の肯定的な回答は、94.7%で2ポイント、「ICTを効果的に活用されているか」は、95.3%で1.6ポイントの改善がみら

れ目標を上回った。「宿題や家庭学習の習慣が身に付いている」の肯定的な回答は、生徒66.3%、保護者60.7%で目標には届かなかった。ひきつづき、学習意欲の向上や基礎学力の定着を目指して、ICTのさらなる活用や家庭との連携を密にしながら取組を進める。体力向上に保健体育科の授業を中心として取り組んでおり、東京都の平均は全学年において上回った。長座体前屈・立ち幅とびなどで全国の平均値を下回る傾向がみられた。

(2) 生活指導、進路指導(キャリア教育) について

- ① 礼儀、あいさつ、言葉遣い、身だしなみ等を教師自らが手本となり指導する。生徒アンケート「基本的な生活習慣(遅刻・あいさつ・返事・身だしなみ)の指導に力を入れているか」の肯定的な回答85%以上を目標とする。
- ② いじめの早期発見と早期対応、早期解決を徹底する。「いじめ基本方針」に基づき、「いじめ防止プログラム」等を活用し、指導力の向上を図るとともに関係諸機関と連携し、組織的かつ迅速な対応を行う。生活指導部を中心に、いじめ防止の啓発活動や毎月実施する生活アンケート、二者・三者面談、教員の生徒観察等の徹底を通して、いじめの未然防止や早期発見に努める。とくに、SNSについては保護者との連携を深め指導を徹底する。生徒アンケート「いじめの未然防止や早期発見について積極的に取り組んでいるか」、「アンケートなどで悩みを相談しやすい環境になっているか」の肯定的な回答85%以上を目標とする。
- ③ 自殺防止の取り組みとして、相談体制の確立と見守り体制の構築を図るとともに「SOSの出し方に関する教育」の充実を図る。
- ④ 不登校生徒に対する支援の充実を図る。家庭訪問や外部機関との連携、**不登校対応巡回指導教員の活用**を積極的に行うとともに、保護者との定期的な連絡を確実に実行する。また、授業配信やオンライン面接などの取組を実施し完全不登校の数を減少させる。次年度は不登校(30日以上欠席)生徒の出現率を6.5%以下に減少させることを目標とし取り組みを推進する。
- ⑤ サポートルームの支援員増員や開設時間の拡大、学習補助の充実を通して、生徒が学校やクラスに適応しやすい環境を整える。
- ⑥ 「セーフティ教室」による情報モラルの徹底や家庭との連携を強化した取組を核とし、ネット社会に適応した人権意識の醸成を図る。
- ⑦ 「食育」の充実と家庭との連携を通して、食生活と健康の関連を理解させる。
- ⑧ 3年間を見通した計画的な進路指導(キャリア教育)を推進し、卒業後の目標を明確にもたせる。生徒アンケート「進路に関する情報が十分に提供されているか」の肯定的な回答85%以上を目標とする。
- ⑨ 地域に生きる(1年)、社会に生きる(2年)、日本に生きる(3年)を主題に学び、体験的学習を推進する。生徒の授業アンケート「各学年に応じたキャリア教育(自分の将来について考えるための授業)が行われているか」の肯定的な回答90%以上を目標とする。

●「信頼と思いやり」を六中スローガンとし、「あいさつ」「合唱」「ボランティア」を学校の特色として、引き続き生徒の自己肯定感の醸成を図った。「基本的な生活習慣(遅刻・あいさつ・返事・身だしなみ)の指導に力を入れているか」の肯定的な回答が92.0%、毎月実施した生活状況アンケートやSNS使用アンケートによって、いじめに未然防止や早期発見、早期解決につながり成果がみられた。「いじめの未然防止や早期発見について、

先生は積極的に取り組んでいる」の肯定的回答は86.3%で2.3ポイント、「アンケートなどで悩みや相談をしやすい環境になっているか」の肯定的回答も83.0%で3.7ポイント前年度より改善がみられた。「進路に関する情報が十分に提供されているか」の肯定的回答は89.7%、「各学年に応じたキャリア教育が行われているか」は95.0%で目標を達成することができた。組織力向上のために各分掌の分担内容をさらに見直すとともに、校務内容の精選を引き続き実行する。また、特別委員会、行事委員会を整理、統合し、各教員の役割を明確にすることによって効率化を図る。防災教育については、水害に対する計画を再構築すとともに、防災や減災のための学びと体験学習の取り組みの充実を図ることで、生徒の実践力や行動力の向上を目指す。また、地域との連携を深め行動訓練の充実を図る。生活のきまり（校則）の見直しを実施することができた。生徒が主体となって考えた校則に基づいて自主的な学校生活を送ることができている。生徒、保護者からの校則に対する意見も肯定的な内容が増えている。

(3) 道徳教育について

- ① 読み物資料を活用するとともに、各教科、特別活動、総合的な学習の時間、体験活動、家庭・地域との交流など横断的取組むとともに、教員の授業力の向上を図り豊かな心情と道徳的判断力及び道徳実践力を培う。生徒アンケート「道徳の授業に積極的に取り組んでいるか」の肯定的な回答85%以上を目標とする。
- ② 道徳推進教師を中心に、特別な教科道徳としての授業改善を積極的に進める。また、道徳的判断力や実践力を高めるための指導と評価の一体化を推進する。
- ③ 「道徳授業地区公開講座」を週休日に設定し全学級で授業を行う。また、外部講師を招聘し生徒の道徳心や地域愛を醸成する。

●道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、各学年の道徳担当教員と連携して年間指導計画を立案するとともに、外部講師の招聘やローテーション授業等の取組を継続しながら道徳授業の充実を図った。また、教育活動全体を通じて道徳の内容項目を意識し、自己肯定感と豊かな心の醸成に努めた。今年度は、「郷土の伝統と文化の尊重」をテーマとして、府中囃子保存会の講演と鑑賞を導入として道徳授業地区公開講座を実施し、保護者地域の方々と意見交換会も行った。次年度は、公開授業時に講師を招聘し「生命」をテーマとして道徳授業地区公開講座を計画する。生徒アンケート「道徳の授業に積極的に取り組んでいるか」の肯定的な回答は93.0%であり目標を達成することができた。

(4) 特別活動について

- ① 防災教育の充実をより一層推進する。災害時における地域との連携や具体的な行動訓練等を行うことにより、中学生として地域の中で果たすべき役割を自覚させる。生徒アンケート「防災など安全に生活を送るための指導がされているか」の肯定的な回答90%以上を目標とする。
- ② 社会性、協調性、思いやりの心、認め合う心の育成のために、生徒会活動や宿泊行事、体育祭、合唱コンクール等の学校行事や学年行事等による体験活動を重視する。生徒アンケート「生徒会活動や係活動、当番活動に責任をもって取り組んでいるか」、「行事に積極的に取り組んでいるか」の肯定的な回答85%以上を目標とする。
- ③ 校内活動にとどまらず、ボランティア活動、地域行事等への積極的な参加を推奨し、生徒の自己肯定感の醸成を図る。生徒アンケート「地域活動（ボランティア活動）に

積極的に参加し取り組んでいるか」の肯定的な回答65%以上を目標とする。

- ④ 部活動は異年齢集団の好ましい人間関係づくりの視点から、府中六中部活動活動方針に沿って、外部指導員等を活用しながら一層の充実を図るとともに、生徒の自己肯定感の向上に努める。生徒アンケート「部活動に積極的に取り組んでいるか」の肯定的な回答85%以上を目標とする。

●**体育祭・合唱コンクール・ボランティア活動を中心とした地域連携を特色として、生徒を中心に主体的な活動を実践することができた。**全校そろって行う行事を実施することにより、上級生と下級生間における六中の伝統の継承が強く感じられるようになった。各学年ともに校外学習や体験学習を実施し、生徒の自主性や社会性、協調性の向上などにおいて成果をあげることができた。「部活動に積極的に参加できた」85.0%、「生徒会活動や係活動、当番活動に責任をもって取り組んでいるか」96.0%、「防災など安全に生活を送るための指導がされているか」の肯定的な回答が96.3%で目標を達成することができた。「ボランティア活動（地域活動）に積極的に参加している」に関しては43.3%で、コロナ禍で途切れたボランティア習慣が回復してない。次年度当初に、ボランティア経験者の講話を計画するなどして生徒へのボランティア意識の啓発の取組を計画する。

(5) 特別支援教育について

- ① 特別支援委員会を週一回時間割内に定例会として設定し、PDCAサイクルを中心とした具体策の検討を行う。学校生活や学習において支援を必要とする生徒の情報を的確に把握し、適切な支援を確実に実行できる指導体制を整える。
- ② 特別支援教育への教員の理解を深めるために外部講師を招聘し、年間を通して校内観察や授業観察を実施し研修を行う。また、特別支援教室巡回指導教員を活用したミニ研修を設定し若手教員の育成を図る。
- ③ 特別支援教室の円滑な運営や充実を図るために、巡回校や学級担任、保護者との連携を密に図る。
- ④ スクールカウンセラーの活用を図るとともに、けやき教室をはじめとした外部機関との連携を密に行い学校不適応生徒の状況改善に努める。
- ⑤ 学校経営支援員を活用した、サポートルームの開設時間の拡大や支援内容の充実を図り、登校習慣の確立や心身の安定につなげる。

●**特別支援教室の存在や指導の内容が、生徒、保護者、教員に広く認知されることに伴って、通室につながるケースが増加し、通室指導を受ける生徒が増え指導の成果もあがっている。**毎週開催している特別支援校内委員会で、生徒の情報交換や具体的な対応策の協議を行った。家庭との連携を重視する支援を中心として、生徒一人一人に応じた支援方法を詳細に検討し成果につなげることができた。また、小中連携を生かした、過去の経緯や生徒の特性、家庭状況の把握などが円滑な指導と育成につながった。

不登校生徒については、生活指導部会や運営委員会で情報共有し、支援の方法や対応について検討や確認を行った。必要に応じて不登校対応巡回教員やスクールカウンセラー、外部機関とも積極的に連携し対応を進めた。学年末には校長が不登校生徒及び保護者全員と面接を行い、卒業や進級についての意思を確認するとともに、登校を再開するきっかけとなる機会とした。不登校出現率（欠席30日以上）が5.2%で前年度より大幅に減少した。サポートルーム支援員の体制充実や登校対応時間の増加により、学校へ足を運ぶ生

徒が増え、教室に戻れる生徒もみられた。さらに不登校生徒が登校しやすい環境を整える取組を推進する。

(6) 読書活動について

全学年で朝読書の時間を設定するとともに、授業での図書室活用、図書委員会の活性化等を通じて生徒の図書貸し出し冊数を向上させるなどに努め、全校で生徒に読書習慣を身に付けさせる取組を推進する。

- 朝読書の継続的な実施と図書委員会の活性化を進め、図書貸し出し冊数や利用生徒数の増加につながった。また、図書支援員や司書教諭が中心となり、図書館の環境整備や図書委員会の積極的な活動が推進された。

2. 次年度以降の課題と対応策

①不登校生徒出現率のさらなる抑制を図る

サポートルームの支援の充実や家庭訪問、電話連絡、オンライン面談など積極的なアプローチを継続するとともに、外部機関等との連携も図りながら、出現率5.0%を下回るように改善に努める。

②六中スローガン「信頼と思いやり」を柱として、「あいさつ」「合唱」「ボランティア」のさらなる活性化を推進する

③家庭学習の習慣化と学力の向上を図る

家庭や小学校との連携を通して、家庭学習を習慣化する取組を実践する。また、タブレットを活用しての授業配信やデジタル教材ミライシードの活用などを推進し学力向上を図る。

④授業改善・特別支援教育の充実を中心とした校内研修の充実を図る

授業改善を中心とした研修・ミニ研修を年間に20回程度開催し、教員の授業力や実践力、生徒の学力の向上を図る。

⑤OJTの推進と人材育成の充実を図る

急激に増えている若手教員の人材育成が急務である。約45%を占める六中が初任校となる教員に対して、OJTの充実を図りながら全校体制で育成に努める。

⑥保護者・地域との信頼関係の構築をさらに推進する

学校からの情報発信や協働等を通して相互理解や信頼関係をさらに深める。学校ブログの開設をはじめとする学校ホームページの充実やスマート連絡帳の活用、学校だよりの紙面の工夫、生徒地域ボランティア活動の活性化等を図る。

⑦各種学校支援員の充実を図る

各種学校支援員の有効な活用を推進し、校務の円滑な運営と教員の働き方改革を実行する。また、生徒の教育環境の整備を重点的に行う。

⑧働き方改革を推進する

引き続き、組織改編と教員が担う校務の精選や平準化、ICTや校務支援ソフトの活用、学校支援員の有効な活用等を通じて働き方改革を推進する。月の勤務時間が45時間を超える教員を出さないことを目標とし取組の工夫を継続する。また、部活動指導員やボランティア指導員の積極的な活用を図り、府中市と連携を図りながら部活動地域移行・地域展開への取組を推進する。

⑨体力向上を図る

生徒の体力向上を目指した取り組みを保健体育の授業、部活動、行事等を中心として、教育活動全般で意識的に取り組み推進する。とくに、立位体前屈・立ち幅とびが全国平均と比較して下回っているので改善を図る。

⑩一人一台タブレットを活用しICT教育の推進を図る

情報推進委員会を中心として、ICT機器等の有効な活用法を取り入れるとともに授業改善に努め「個別最適な学び」を推進する。新しいデジタル教材ミライシードの活用などを推進し学力向上を図る。

⑪ESD教育の推進を図る

各教科等の学習内容と関連付けながら学校全体として組織的に取り組み、SDGsを意識して課題解決に向けた資質・能力を育成する。

⑫学校教育の指標となる、生徒・保護者評価アンケートを活用し、学校の実態を正しく把握し学校改善につなげる。

⑬習熟度別少人数授業の充実やTGG、英語エンジョイウィークなどの取り組みを通して英語のコミュニケーションの能力の向上を図る。

⑭創立60周年記念式典に向けての準備を計画的に進める。また、令和8年度からの円滑な新標準服導入と新たに夏服（ポロシャツ・ハーフパンツ）への変更を進める。